

栃木県埋蔵文化財 センターだより

発行 平成27年12月4日
栃木県教育委員会
宇都宮市埜田1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (公財)とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>

CONTENTS

- 埋蔵文化財センター常設展示室オープン!!
- 特集 栃木県埋蔵文化財センター常設展示室へようこそ!!
- 埋蔵文化財センター普及事業の紹介
- 埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から
板戸愛宕塚古墳(宇都宮市)・舟戸台北遺跡(芳賀町)
- 市町教育委員会が実施した発掘調査から
町谷遺跡(小山市)・「みぶ車塚古墳」(壬生町)
- 平成27年度巡回展 栃木の遺跡
-最近の発掘調査成果から-



埋蔵文化財センター^{ひょうせつてんじしつ}常設展示室オープン!!

埋蔵文化財センターは、平成3年4月1日の開所以来、県内の埋蔵文化財の発掘調査、研究に取り組んでまいりました。この間、当センターには、膨大な量の遺跡の情報と出土品が蓄積されました。これらは郷土の先人が私たちに残してくれた県民共有の財産といえます。

このたび、当埋蔵文化財センターでは、11月1日より常設の展示室を設け、これまで蓄積してきた成果を、広く県民の皆様にご覧いただくことにいたしました。

展示では、始めに、発掘調査によって土に埋もれた遺跡からどのように歴史を解き明かしていくのか、考古学に基づく調査方法をご紹介します。そして、旧石器時代から平安時代までの本県の歴史や人々の生活・文化を出土品(遺物)などを通してわかりやすく展示・解説し、小中学生の皆さんの歴史学習の一環としてもご利用いただけるようにいたしました。また、実物の土器に触れていただけるよう収蔵庫などのバックヤードツアーも行っています。

当センターの展示を通して、栃木県の歴史・文化の特質を知り、関心を深め、愛着を持っていただければ幸いです。皆様のご来館をお待ちしております。



下野市立国分寺西小学校の皆さんによる、くす玉開披式^{かいひ}

オープン記念式典には、県内市町の関係者の方々や下野市立国分寺西小学校の6年生をお迎えし、盛大に行われました。
(写真中央左から入内澤(公財)とちぎ未来づくり財団理事長、増渕下野市生涯学習文化課長、金田県教育委員会教育次長)

特集

栃木県埋蔵文化財センター

常設展示室へようこそ!!

③縄文時代コーナー

気候が温暖となり、雨の量が増え、森林が発達しました。煮炊き用の縄文土器や弓矢などの道具を発明し、森林や川から多くの食材を得て生活が安定しました。土偶など独特の儀式用の道具も作りました。

一万年以上続き、現在の生活の礎となった縄文文化を紹介します。



三輪仲町遺跡（那珂川町）
出土の縄文土器



荻ノ平遺跡（那須烏山市）
出土の土偶

②旧石器時代コーナー

今から45,000～16,000年前、現在より寒く乾燥した気候の中で、人々は食料や石器の材料などを求めて、移動しながら生活していました。石の性質を巧みに利用し、規則的に無駄なく石を割って作った石器を展示します。



西刑部西原遺跡（宇都宮市）出土の石器

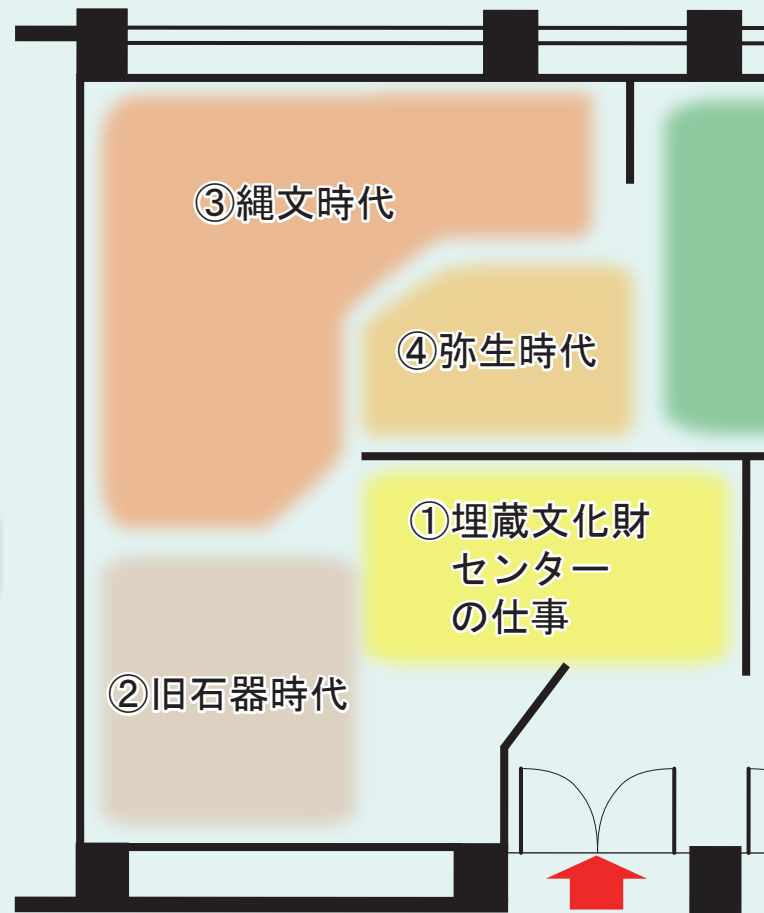
④弥生時代コーナー

栃木県では、弥生土器に縄文がついています。銅鐸などの青銅器や石包丁は、今のところ発見されていません。白骨化した骨を壺に収めて再び埋葬する「再葬墓」など独特の埋葬法もみられます。

西日本と異なる栃木県の弥生文化を紹介します。



谷館野東遺跡
（下野市）
出土の弥生土器



①埋蔵文化財センターの仕事コーナー

「どうやって昔の家の跡を見つけるのですか?」、「文字のない時代の年代はどのようにして分かるのですか?」などなど、発掘調査の手順や考古学の方法について、分かりやすく解説します。

平成27年11月1日、栃木県埋蔵文化財センターに常設展示室がオープンしました。展示内容は、栃木県全域を対象とした埋蔵文化財に関するものです。発掘の方法や遺跡から分かった旧石器時代から平安時代の歴史、人々の暮らしなどを出土品などからわかりやすく説明します。

ここでは、常設展示室の見どころと主な展示資料を紹介します。

⑤古墳時代コーナー

県内最大の前方後円墳である吾妻古墳を展示し、古墳とは何であったのかを探ります。また、ムラの跡や豪族の館の跡などから出土した遺物を展示し、豪族の統治の下で、地域の開発が進められた時代の様子を紹介します。



吾妻古墳
(栃木市・壬生町)
出土の円筒埴輪



西赤堀遺跡 (上三川町)
出土の銅鏡



菅田古墳群 (足利市)
出土の勾玉やイヤリング

⑥飛鳥～平安時代コーナー

中国から律令制度を取り入れ、日本の国のかたちができあがった時代です。栃木県(当時の下野国)は都から派遣された国司が着任した役所の遺跡(国府跡)がよく保存されていることで有名です。また、畿内と地方を結ぶ東山道跡と考えられる道路の跡も県内各地で発掘されています。中央集権国家を象徴する遺構や遺物を紹介します。



杉村遺跡 (宇都宮市) で発見された推定東山道跡

⑤古墳時代

⑥飛鳥・奈良
・平安時代

⑦体験コーナー
(特集展示コーナー)

⑦体験コーナー

土器などの本物の出土品に、実際に触れながら学習するコーナーです。考古学の入門書なども閲覧できます。なお、特集展開催期間は展示室となります。

収蔵庫

本館

常設展示室

埋蔵文化財センター1階平面図

正面玄関

埋蔵文化財センター普及事業の紹介

出前授業

教育普及活動として小・中学校に出向いて「出前授業」を行っています。

社会科（歴史）の授業をはじめ、総合的な学習やクラブ活動など、さまざまなリクエストに応じています。

ここでは、足利市立御厨みくりや小学校が企画した「大昔の暮らしと社会の変化について調べよう」をテーマとした授業への協力を紹介します。当日は、6年生4クラスの児童152名が参加しました。

授業は、市内周辺で見つかった遺跡の紹介を中心に、そこから出土した土器や石器などの道具を実際に見て・触れてもらいました。

また、ランダムに置かれた縄文時代から平安時代までの道具をグループ毎に相談して時代順に並び替え、その結果を代表者が発表するクイズ形式の授業を行いました。

これらの授業を通じて考古学への関心を深め、地域の遺跡と関連付けることにより、歴史を身近に感じてもらうことができました。



足利市立御厨小学校出前授業の様子



時代ごとに遺物をならびかえてみよう！

職場体験

主に中学生や高校生の職場体験を受け入れています。この職場体験では、埋蔵文化財センターが通常行う業務の中で、特に報告書作成のための基本作業のほか、発掘現場での作業も体験します。

平成27年度は、11月現在で10校39人の生徒が体験学習を行いました。

室内作業は、土器や石器についた汚れを落とす「水洗作業」、遺物に遺跡の略号や番号などを書き込む「注記作業」、土器を和紙で包み上から墨を打ち文様を写し取る「拓本採り」などがあります。

発掘作業は、遺跡に出向き、実際に古墳の周溝しゅうこうや石室（埋葬施設）の一部を掘り下げます。また、測定の補助や、遺構の図面の作成、出土遺物の取り上げを行うこともあります。

どの作業も細かくて根気のいる作業ですが、皆さんはじめての「仕事」を最後までしっかりとやり遂げることができました。



2～3人のチームを組んでの測量作業



遺物を傷つけないように少しずつ掘り下げます

埋蔵文化財センターでは、施設見学、体験学習、展示などの普及啓発事業を行っております。ここでは、平成27年度に実施した主な事業について紹介します。

特別公開

7月23日から26日の4日間、埋蔵文化財センターの施設内を公開しました。

バックヤードツアーでは、一般の方にセンター内の施設や仕事の様子を紹介するほか、収蔵庫で県内各地から出土した土器や石器の実物を見て・触れて、手触りや重さを実感していただきました。

また、勾玉づくり、うちわづくり、弓矢による狩りの模擬体験、土器パズルなどの体験教室も行いました。この期間中は、229人の方が来場されました。



バックヤードツアースタート！



古代瓦の文様を写して自分だけのうちわ作り



弓矢での狩り体験

埋蔵文化財活用のための基礎講座

教職員や市町教育委員会の職員を対象に開催しています。各時代の概説や、最近の調査成果についての講義、土器作り・土偶作りなどの体験、遺跡見学などをおこない、学校や社会教育の場で埋蔵文化財を活用する基礎を学んでいただきます。

平成27年度は、8月19日～21日の3日間、以下の日程で講座を行いました。

《1日目》8月19日（水）

◆埋蔵文化財の活用について

講義 「埋蔵文化財センターが行う普及事業」

実習 「センター内施設見学」

講義 「授業などで土器や石器を活用するには」

講義 「教育現場における埋蔵文化財の活用」

《2日目》8月20日（木）

◆体験実技・史跡見学

実習 「土器・土偶作り」

実習 「史跡及び遺跡見学・小山方面」

《3日目》8月21日（金）

◆考古学概説、意見交換会

講義 「時代別考古学概説

—教科書の内容と栃木県の事例を対比して—」



土偶作りにチャレンジ！



意見交換会の様子

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査から

1. 板戸愛宕塚古墳（宇都宮市） -古墳群解明への第一歩-

真岡市長田から高根沢町宝積寺間の国道408号の整備が進められています。路線が鬼怒川左岸の河岸段丘上にある板戸愛宕塚古墳群（約1,500年前）にかかり、今回、その部分を発掘調査しました。調査では二つの成果が得られました。一つは、直径25mと考えられていた板戸愛宕塚古墳（この古墳群の中で最も規模が大きい古墳）が、周囲を巡る堀を調査した結果、2倍近くの大きさになると判明したことです。もう一つは、消滅した古墳の位置と大きさが分かったことです。この土地に育った年配の方が、「小さい頃、飛び降りて遊んだ塚があったが、土地改良で潰して平らにした」と語る、幻の古墳です。記憶されていた場所付近から、周囲を巡る堀が見つかり、直径約27mの円墳があったことがわかりました。壊される直前には、既に子供が「飛び降りられる高さ」までに削られていたのでしょう。



板戸愛宕塚古墳の位置



板戸愛宕塚古墳群全景



消滅した古墳から出土した土器

2. 舟戸台北遺跡（芳賀町） -残りのよい住居跡を調査-

舟戸台北遺跡は、国道123号沿いの宇都宮市との境に近い芳賀町西水沼に所在します。調査の結果、平安時代初め（約1,200年前）の竪穴住居跡3軒、溝8条、土坑約20基を確認しました。

竪穴住居跡3軒のうち2軒は全体を調査しました。一番南側にある住居跡は平面の形が一边4.5mの方形を呈します。一部分は後世の攪乱により壊されていましたが、深い場所では約80cmの深さがあり、比較的よく残っていました。その上、カマドの残りも良く、両袖にはそれぞれ甕を土台として使用していました。西側の袖の甕は、口縁を上にして、東側の甕は口縁を下にして設置してありました。

この北側にもほぼ同時代の住居跡を確認しました。この住居跡からは、土器などの遺物は多く出土しませんでした。この住居を埋めていた土には、ロームの比較的大きい粒がたくさん入っていたことから、住居が使われなくなった後に、人の手で埋め戻されたものと考えられます。土器は埋め戻す前に片付けられたため、あまり出土しなかったのかもしれませんが。



舟戸台北遺跡の位置



人為的に埋め戻された住居跡



カマドの袖の中から出土した土器

市町教育委員会が実施した発掘調査から

3. 町谷遺跡（小山市）－縄文時代の貝殻発見！－

町谷遺跡は、思川東岸の台地上に所在します。今回は、集合住宅の建設に先立ち、縄文時代前期（約6,000年前）の住居跡（3軒）および中世の地下式坑（2基）のほか、土坑・ピットの発掘調査を行いました。そのうち特に注目されるのは、調査区の南西にあたる住居跡（1号住居）です。この住居のかたちは楕円形（6.3m×4.3m）で、中から多量の縄文土器と廃棄された焼土が確認されました。その焼土の中には、ヤマトシジミの貝殻が朽ちずに、しかも原形をとどめた状態で発見されました。

縄文時代前期でも関山式期の集落は県内でも調査事例が少ないため、今回の調査は小山市域や県内の縄文時代を考える上で貴重な成果と言えます。



住居跡（1号住居）全景



町谷遺跡の位置



貝殻出土状況



出土したヤマトシジミ

4. 「みぶ車塚古墳」（壬生町）－赤く塗られた石室－

二年目を迎えた「みぶ車塚古墳」の発掘調査は、江戸時代以前に破壊された石室の入り口部分と石室前面に造られていたと考えられる「前庭」の施設を確認することを目的としました。石室内からは約80点のガラス玉や水晶製の切り玉、金銅張の耳環などが発見されましたが、石室の多くの箇所が鎌倉時代以降に大きく壊されていることがわかりました。

昔から「みぶ車塚古墳」の石室については、死者を葬る玄室の奥壁のみに赤彩が施されているとされてきましたが、発掘調査の結果、土に埋もれていた玄室の側壁や前室の側壁などから、赤彩の跡が発見されました。このことから、古墳が造られた当時は石室の全体が赤く塗られ、まさに王者を葬るにふさわしい石室であったことが判りました。

「みぶ車塚古墳」については、来年度も石室と前庭の施設を確認するための発掘調査を継続する予定です。



「みぶ車塚古墳」の位置



前庭部発掘作業風景



石室発掘作業風景

■平成27年度巡回展 栃木の遺跡 —最近の発掘調査成果から— ■

栃木県では、毎年多くの発掘調査が実施されております。その成果をできるだけ早く、県民の皆様にご覧いただくために、毎年「巡回展 栃木の遺跡」を開催しております。今年は県南・県北の2施設において、下記の日程で開催します。ぜひ、ご来場ください。

展示遺跡と主な展示資料

●岩舟台遺跡（大田原市）

県北特有の縄文土器が多数出土

縄文土器深鉢、石器など

●横塚古墳（下野市）

全長約 80 m の前方後円墳を調査

形象埴輪など

●横倉戸館古墳群（小山市）

小山市内で特に古い古墳を調査

土師器壺など

●黒袴台遺跡（佐野市）

三義山のふもとに栄えたムラ

石器、縄文土器深鉢、板碑など

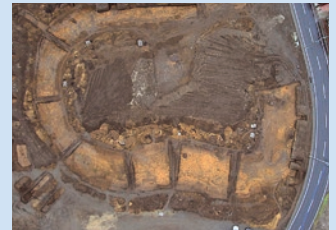
●南飯田前畑遺跡（小山市）

佐川野上遺跡（野木町）

縄文時代の調理場と近世の墓地

縄文土器深鉢、板碑など

※12遺跡、約180点の資料を紹介します。



横塚古墳全景



岩舟台遺跡土坑遺物出土状況



横倉戸館古墳群 土師器壺



黒袴台遺跡 板碑

開催館のご案内

県南会場

◆栃木県埋蔵文化財センター

会 期：平成27年11月 1日（日）

～平成27年12月27日（日）

開館時間：9時30分～16時30分

（入館は16時まで）

休 館 日：土曜日

関連行事：●特別講演「歴史を掘る」

—県内の埋蔵文化財発掘調査の成果から—

平成27年12月6日（日）13時30分～

講師 橋本 澄朗氏（栃木県考古学会会長）

会場 埋蔵文化財センター研修室 ※申込不要

県北会場

◆第1会場 那珂川町なす風土記の丘資料館

◆第2会場 大田原市なす風土記の丘湯津上資料館

会 期：平成28年2月13日（土）

～平成28年4月 3日（日）

開館時間：9時30分～16時30分

（入館は16時まで）

休 館 日：月曜日（祝日の場合はその次の平日）

関連行事：●成果発表会・遺跡報告会

平成28年2月13日（土）10時00分～

●展示解説

平成28年2月13日（土）・3月5日（土）

各回とも13時30分～

※申込是那珂川館へ ☎0287-96-3366

埋蔵文化財センターの見学・体験学習・職場体験等のお申し込みは
ホームページ <http://www.maibun.or.jp> をご覧のうえ普及資料課まで
（代表）TEL 0285-44-8441 （直通）0285-43-1971